



nurse



## 看護学部長挨拶

看護学部長・教授 春山 早苗

自治医科大学は今年創立 50 周年を迎え、創立記念日である 5 月 14 日（土）には、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、規模を縮小し、十分な感染予防対策を講じた上で、記念式典が開催されました。金子恭之総務大臣、平井伸治全国知事会会長、福田富一栃木県知事をはじめとした来賓のご臨席を賜り、本学の教職員も含め約 260 名が出席しました。

看護学部は、前身の看護学校、看護短期大学を経て、本学設立 30 年後の平成 14（2002）年 4 月に開設されましたので、20 周年を迎え、令和 4（2022）年 3 月には 17 回生が卒業し、卒業生総数は 1,775 人となりました。

この 20 年間に、わが国では超高齢社会のみならず、人口減少が進みました。高齢者数は令和 22（2040）年頃にピークを迎え、医療・介護需要が増大していく一方で、支え手として期待されてきた 65 歳未満の若者・現役世代は減少していきます。推計では、今後も看護職総数が不足する都道府県があり、また充足されるように見える都道府県でも、介護保険施設や訪問看護事業所等や、山地や離島をはじめとした一部の地域において看護職の不足が見込まれています。このような背景から、看護職全般の就業場所は医療機関のみならず在宅や施設等へ広がりを見せ、医師等多職種と連携して適切な保健医療福祉を提供することや患者の多様性・複雑性に対応した看護を創造することが一層求められています。また、保健師には地域特性を活かした健康なまちづくりや健康危機対策の推進等が、助産師には女性の健康について家族や地域社会に広く貢献することが期待されています。

本学部では、全ての学生が看護師と保健師の、併せて選択した学生は助産師の国家試験受験資格を得られる統合カリキュラムを開設以来、継続しています。看護系大学は 280 大学 296 課程（令和 4 年度）と増加の一途を辿っていますが、全ての学生が保健師の国家試験受験資格を得られる大学は 1 割に満たず、一部の学生であっても学士課程において助産師国家試験受験資格を得られる大学は約 3 割であり、これらは現在では本学部の大きな特色であり魅力となっています。本学の理念を踏まえ、高度な医療並びに地域住民の保健医療福祉に貢献できる総合的な看護職の育成という本学部の目的を追求していくためには、これまで力を入れてきた実習教育にシミュレーション教育やメディア授業も組み合わせ、教育のさらなる充実を図っていく必要があります。また、このような本学部が育成する看護職人材は、将来の人口構造の変容を見据え、国が推進している効率的かつ質の高い医療提供体制や地域包括ケアシステム（医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制）の構築に寄与することのできる看護職にも合致しています。

本学部では学生支援の一環として、1 年次から学生へのキャリア支援を行っています。3 年次学生を対象とした『キャリアを考える会』では看護学部同窓会の協力も得て、卒業生の卒業後から現在までのキャリアを聞き、交流する機会を設けています。卒業生は本学附属病院を始めとした高度医療機関やへき地を含む地域の保健医療福祉機関の看護師、助産師、保健師として、また養護教諭、国際協力に従事する看護職や教育研究者として活躍しており、そこに至るまでに複数の看護職能資格取得を活かして様々なキャリアを積み重ねている者も多くいます。今後も、ワーク・ライフ・バランスを図りながら、看護職としてのキャリアを生涯にわたり継続していくことのできる人材を送り出していきたいと考えています。

学生のご家族の皆様や関係者の皆様には、看護学部が次の 10 年に向かって発展し続けるために、今後ともご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。



## コロナ禍での学生生活

学生委員長・教授

大塚 公一郎



本看護学部生が健康で安全、快適な大学生活を送るための支援を担当している学生委員会の立場から、日頃、感じていることを述べさせていただきます。

ご周知のように、COVID-19 の感染拡大が世界中の人々にもたらした大きな影響は、3 年目に入る今も続いていると言わざるを得ません。わが国でも大学生が学修を含めた生活全般の大きな変化を余儀なくされており、心身の健康に時としてマイナスの結果をもたらしているとの報告もなされています。

本学部では、以前から、各学年ごとに、3 名のベテラン、中堅、若手から構成される専任教員が学年担当アドバイザーとなり、学生の学修のみならず、学生生活全般の相談窓口となり、教務委員会、学生委員会、事務職員との関係のもとで懇切丁寧な学生支援をしています。また、相談ルームをもうけて、臨床心理士の資格をもつ女性カウンセラーを配置しています。昨年度からは、COVID-19 の感染拡大時のサポートを強化することも念頭において、学生委員会メンバーである教員 3 名をメンバーとする寮運営会議を発足し、女子学生寮管理人や学生の寮自治会役員などとも緊密な連絡をとりながら、寮生の安心、安全の確保につとめています。

本看護学部では、大学のホームページ上でも公開されている学生生活の新たな指針にのっとりた生活を学生の皆さんにお願いしています。そこには、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐための、一般の人々にも推奨される生活の様式だけでなく、さらに、講義や演習を受ける学部校舎、本学部生の約半数が居住している女子学生寮、そして、看護学の実習の場になっている大学附属病院が同じ構内にあるという恵まれてはいるが特殊な環境で学ぶ、ほかならぬ看護学生として守ってもらいたい項目が具体的に記載されています。通常の大学生よりも、厳しい様々な行動の自粛を求められる場合もあるわけですが、これまで、学生の皆さんの努力のみならず、保護者の皆さまや本学部の実習施設の方々のご理解、ご支援のおかげもあり、この行動指針は遵守されています。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。



## コロナ禍での学生生活

### 入学から一年を振り返って

2年

塚田 帆南

桜が舞い散る看護学部校舎までの道を、新鮮さと緊張の折り混ざった気持ちで歩いていった頃からはや一年…、あっという間でした。振り返ってみると毎日がとても濃い日々でした。

日々の授業は、これまでよりもさらに専門的な学習へと進み、看護職を目指す先輩や仲間とのかかわりは、看護の魅力へと再び導いてくれています。

また、この1年は、私が幼少期から好きだったモノづくりを新たな仲間たちと発展させ、疾病予防アプリの開発や高齢者でも安全に乗れる車の開発などへ取り組み始めた年でもあります。夢を応援してくれ、日々支えてくれる家族や仲間の存在のありがたさを改めて感じました。

まだコロナ禍で様々な制限があり、感染拡大予防への対策は継続する必要があるものの、私たちの学習への影響はほとんどなく過ごせています。これは、教職員や事務職員の方々の多くの工夫があったからだと思います。そして、多くの仲間とともに自治医科大学看護学部で学べることに感謝しながら、今年も頑張っていきたいと思います。

### 病棟実習を終えて

3年

大島 崇太

2年生の実習は私たちにとってはじめての看護を展開する実習でした。さらに、新型コロナウイルス感染拡大の影響で病棟の実習時間や患者さんとのコミュニケーションの制限などがあり、大きな不安を抱えて実習に臨みました。不安はありましたが、臨地実習指導者や先生方からの支えもあり、充実した実習にすることができました。

実習では、先生方からたくさんのご指摘や助言をいただきました。前半の実習では、患者さんに対する実際の看護実践そのものについてご指摘や助言をいただき、事前の計画や目的の確認などあらためて学ぶことができました。後半は、実習を行っていく中で生じた疑問を自分で思考し、解決できるよう指導をいただきました。自ら思考することで、患者さんやケアへの関心が高まり、理解も深まりました。

実習が終わり、再び授業が始まりました。実習後の講義・演習は、実習前にはなかった視点や気づきがあり、授業の内容をただ「覚える」のではなく、「理解する」ことができたり、実習と講義・演習を自分自身で関連させながら学習することができたりしています。また、疑問はそのままにせず、教科書や文献で調べたり、友人や先生に相談したりするようになりました。

今回の学び・経験を活かし、3年次の病棟実習や地域を対象とした実習にも臨みたいと思っています。

### 新4学年を迎えて

4年

北島 海羽

4学年となり、この3年間で振り返ると、さまざまな人のサポートで今の自分があると実感しています。

とくに、2学年はCOVID-19感染拡大防止によるオンライン授業となり、学習面や今後の実習について不安を覚えていました。しかし、不慣れな中、先生方や看護学務課の方々がサポートしてくださり、自宅でも学べる環境が整い、安心して学習ができました。さらに臨地実習は、他大学などでは中止となる中、本学部は臨地実習ができるように努めていただいたおかげで、臨地や学内演習では経験、発見できないことをたくさん学び、見つけることができました。

3学年の臨地実習で私が感じたことは、他者からの意見やサポート、私が今までに培った経験が大きな助けとなったことです。講義や演習での知識の他、グループで取り組む演習や課題を通して、お互いに意見を出し合い、自分にはなかった視点に気づきながら、より良い看護を目指すことができました。演習や実習グループメンバーから自分の強みを見つけてもらえることもありました。担当の先生と実習後に面談することで自分の課題を明確にすることもできました。また、中学から高校まで続けた部活で培った新聞づくりや普段の生活の中で家族や友人が発した言葉などから着想を得て、実習に活かしたことはとてもうれしかったです。

看護学部の教職員の方々や臨地実習指導者、実習グループメンバー、これまで受け持った対象者の方々、中学・高校の恩師、家族や友人に感謝しながら、残り1年もしっかり学び、国家試験に臨みたいとも思います。



## 令和3年度着任挨拶

基礎看護学・准教授

内堀 真弓



令和3年4月1日付で基礎看護学に着任いたしました、内堀真弓と申します。看護学部では基礎看護学を、大学院ではがん看護学を担当させていただいております。

私は大学卒業後、都内の総合病院、研究所附属病院で看護師として勤務いたしました。その際、多くの慢性疾患をもつ方々と出会い、病を持ちながらの生活を支える看護の重要性和奥の深さを知りました。その後、大学院に進み、教員として教育、研究に携わるなかで、一貫して病を持ちながら生活する人々を支える看護を探究し続けています。

自治医科大学着任後の1年間は、新しいことばかりで緊張の連続でしたが、どうにか無事に満開の桜を再び見ることができました。都内での勤務が長く、窓から見えるのは隣のビルや狭い空でしたので、四季折々の変化を窓の外に見、肌で感じるができることに日々癒されています。

コロナ禍でマスクを外して語ることができない分、眼差しから発せられる情報はより重要になってきていると感じます。学生の皆さんの希望に満ち溢れた瞳が、より一層輝きを増すよう、微力ながら支援していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

精神看護学・助教

路川 達阿起



この度 令和3年5月1日付で自治医科大学 看護学部 精神看護学助教に着任いたしました路川 達阿起と申します。

私は平成25年に本学部を卒業後、茨城県立中央病院、茨城県立こころの医療センターでの勤務を経て、平成28年～30年まで本学部の精神看護学助教として勤務させていただきました。決して勉強が得意というわけでもなく、自分が教員として働くことには不安が強かったのですが、諸先生方にお力添えを賜り、教員として働きたいという思いを抱くようになりました。令和2年には、何とか修士課程を修了し、自分という存在に向き合いながら日々を過ごしております。

今後は、本学の理念として掲げられている高度医療と地域医療に従事できる看護専門職の育成やまだまだ課題の多い精神看護学分野における研究と活躍の幅を広げていきたいと考えています。

浅学の身ではございますが、新しい環境の下、教育および研究に一層精励いたす所存でございますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

老年看護学・助教

酒井 千裕



令和3年4月に老年看護学の助教として着任いたしました、酒井と申します。私は大学卒業後、自治医科大学附属病院に就職し重症管理部門、外科病棟、内科病棟と満遍なく経験させて頂きました。病院勤務の約半分で新人看護師や学生の指導に関わりました。新人看護師と学生への指導の違いやそれぞれの難しさ、何より学生から受ける刺激が思った以上に自分の成長にも繋がることに驚き、様々考える日々でした。そんな折に大学院進学や教員の道もあると熱心に教えて頂く機会に恵まれ、自身の生活スタイルの変化もあって現在に至ります。

着任して1年が経過しましたがあっという間で、相変わらず日常生活に何らかの制限がついています。できないことに目を向け過ぎずに、人との繋がり大切さを再確認しましたが、看護にも通じることだと思います。学生の皆さんには根拠に基づいた看護はもちろん、総合的に相手を考えられる看護師になってほしいと思い、微力ながらお手伝いさせていただきます。よろしくお願いいたします。



令和3年4月より成人看護学助教として着任いたしました。私は自治医科大学看護学部卒業後に自治医科大学附属病院に勤務しておりました。まさか教員という形で、母校に戻ってくるとは夢にも思っておりませんでした。素晴らしいご縁をいただき、こちらで勤務させていただく運びとなりました。教員として働かせていただくことは初めての経験で、戸惑いもありましたが、それ以上に自分の看護観や教育観に向き合ことができ、得られたものが多い一年となりました。また、看護師としてではなく、教員として附属病院に実習に行かせていただいたり、学生指導に携わったりすることで、新たな気づきや学びが得られ、有意義な日々を送ることができております。これからも看護職への希望に満ち溢れた学生たちと一緒に私自身も成長していけるよう、精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



令和3年4月より、地域看護学の助教として着任いたしました。私は、第13期生として平成30年3月に本学看護学部を卒業し、卒業後は茨城県内の市町村で保健師として3年間勤務しました。大学教員として働くことは初めてでしたが、多くの先生方にサポートをいただきながら、たくさんの経験を積ませていただきました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大時には、支援活動として、栃木県内の保健所で感染症対応業務に携わる機会もいただきました。現場での実践経験は長くはありませんが、支援活動を経験させていただいたことで、学生にも保健所の実際の様子を具体的に伝えることができるようになり、日頃の教育活動にも活かすことができました。

今後も教育者としての力をつけていくために、自分自身が取り組むべきことを考え行動することを怠らず、日々努力を重ねていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 新型コロナウイルス感染症に関する保健所への支援活動

地域看護学・准教授

島田 裕子



新型コロナウイルス感染症の感染者の急増により、積極的疫学調査や自宅療養者の健康観察等の業務がひっ迫している栃木県内の保健所に対し、教員が支援活動を行いました。

令和3（2021）年1月の第3波における厚生労働省からの要請による宇都宮市保健所への支援を始め、その後は栃木県からの要請により、第6波時には教員のうち28人が県内4か所の保健所で支援を行いました。支援にあたっては、春山学部長を中心に全教員が協力して教育研究活動を調整して支援体制を整えました。

最初の活動となった宇都宮市保健所への支援においては、国際医療福祉大学、獨協医科大学、足利大学と連携して活動しました。県内の他大学と共にこのような体制を作り支援したのは初めてのことであり、この活動は今後、自然災害等の大規模災害発生時の支援にも活きるものと考えます。また、この他にも他県の保健所等への支援や栃木県内のワクチン接種に協力した教員もいました。

積極的疫学調査や健康観察の際は、電話口での感染者の咳や呼吸の状態を把握し、症状や今後の生活への不安の訴えを聞いて、身体的・精神的にどのような健康状態にあるかを判断し、周囲の者への感染予防も含めた保健指導を行う等、看護の知識と技術をフルに活用することが求められます。

この支援活動を通して、新型コロナウイルス感染症を含め地域の健康危機に対応していくためには、地域社会の様々な機関や人々と連携し、本学の使命を果たしていく重要性を認識すると共に、支援活動の経験を今後の学生への看護教育の充実に繋げていく必要性を実感しています。



## へき地診療所における看護活動の実態と課題に関する調査

地域看護学・講師 青木 さぎ里

本学の建学理念は、医療に恵まれないへき地等における医療の確保及び向上と地域住民の福祉の増進です。この実現にはへき地における看護活動の理解が重要ですが、看護学部開設当時、医師の活動報告はあったものの、看護活動の報告は非常に少なく、その実態は明らかではありませんでした。

そこで、地域看護学担当の教員は、本学部の共同研究費の助成を受けて調査を続けてきました。最初に、平成14年度に3県8市町村10か所のへき地診療所で働く看護師を対象にインタビュー調査を行いました。その結果、へき地診療所の看護活動として、次の5つの活動が重要であることが分かりました。①地域社会の共同生活のあり様を把握し、それを基盤とした看護活動、②在宅ケアチームの一員としての関係機関との連携、③地域住民の健康問題を共有し、地域住民の健康レベル向上に向けた市町村保健師との協働活動、④身近な機関としての地域住民健康生活支援、⑤アセスメントに基づく医師不在時や救急時の対応と拠点病院との連携です。

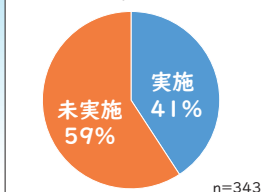
全国には約1,000か所のへき地診療所があります。所在地により、気候的、地理的、社会資源的にも多様な特性があり、人々の生活や健康状態は異なると考えられます。そこで、上述の調査結果を基に、平成15年度に全てのへき地診療所を対象に郵送による質問紙調査を実施しました。これにより、多岐にわたる看護活動内容と看護活動における工夫が明らかになり、さらに、へき地診療所看護師へのサポート体制の整備及び健康危機管理体制が課題であることも明らかになりました。

こういった実態と課題は、人口構造や医療福祉保健体制などの時代の変化に伴い、変わると考えられます。そこで、本学部の共同研究費を活用し、概ね5年おきにこの全国調査を継続しています。調査項目は、当初からの調査項目に、調査時点の社会状況を考慮した項目を追加しています。これまでに、へき地診療所の看護活動の実態のほか、へき地診療所の看護職の学習ニーズ、市町村合併による地域医療の変化、医師の指示のもと実施した診療補助行為、介護保険サービス整備状況を明らかにしてきました。

調査結果は、へき地での看護活動に役立てていただけることを目指して学会や論文で発表しています。また、本学部の地域看護学科目や選択科目「へき地の生活と看護」に活かしています。へき地を取り巻く変化は今後も予想されますので、調査を継続し動向を把握していく予定です。

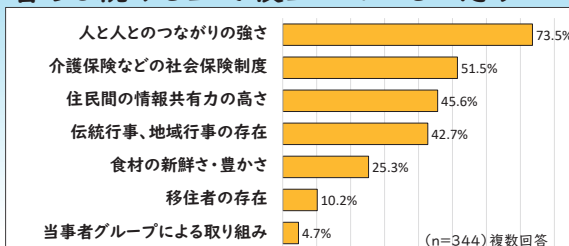
### へき地診療所での在宅看取りの状況

昨年1年間に1件以上在宅での看取りをしたか



- 看取りをしている診療所の常勤看護師は年平均3.2人の看取りをしていた。
- 看取り件数の動向は、減少傾向34.1%、増加傾向9.3%、不変23.0%であった。

### 地域住民が住み慣れた地域で健康に暮らし続ける上で役立っていると思うこと



令和元年度調査の結果（調査対象はへき地診療所781か所に勤務する看護職、回収率44.0%）

※看護学部教員共同研究費は、本学部教員が、臨地実習関連施設職員等、本学の教育に協力していただく方々を行う共同研究を助成する制度です。



## 令和 3 年度自治医科大学卒業式および学位記伝達式

令和 4 年 3 月 4 日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、令和 3 年度自治医科大学卒業式が厳かに挙行されました（医学部 45 期生 125 名、看護学部 17 期生 105 名）。

本年も新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、卒業生および教職員のみで執り行われました。式典では、看護学部を代表して坂原朋佳さん・塚田美穂さん・芳賀彩香さんに、永井学長から卒業証書・学位記が授与されました。卒業式終了後、看護学部校舎において、学位記伝達式が開催されました。



## 令和 4 年度自治医科大学入学式

令和 4 年 4 月 8 日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、令和 4 年度自治医科大学入学式が執り行われました。今年度は医学部 123 名（51 期生）、看護学部 105 名（21 期生）が入学し、看護学部を代表して齋藤柚子さんが誓いの言葉を読み上げました。



※卒業式および伝達式・入学式ともに、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、卒業生・新入生及び教職員のみで執り行われました。



## 第 14 回文化看護学会学術集会について

### 第 14 回文化看護学会学術集会

実行委員長 田村 敦子（小児看護学・准教授）

第 14 回文化看護学会学術集会は、令和 4 年 3 月 12 日に自治医科大学看護学部を配信会場としてオンライン開催され、翌日から 28 日までオンデマンド配信されました。市民公開講座も開催され、学術集会参加者 120 名と合わせて 168 名の参加がありました。本学部初のオンライン開催の学会でしたが、石井慎一郎事務局長（前精神看護学講師）をはじめとして、企画委員 11 名・実行委員 14 名の本学部教員が一丸となって、取り組みました。

永井優子（精神看護学教授）学術集会会長の下、『「ふれあう」文化と看護』をテーマに、コロナ禍であるからこそふれることやふれあうことの重要性について、考えを深める機会となりました。会長講演では、深く「ふれあい」について語られ、「ふれあい」とは、看護を受ける人と看護を提供する人が共同創造するものであり、よりよい看護を築いていくために大切なものであると考えさせられました。基調講演では伊藤亜紗先生（東京工業大学、リベラルアーツ研究教育院、科学技術創成研究院、教授）が、コロナ禍であるからこそ、物理的な接触を超えた“さわる”“ふれる”の可能性を開拓していく想像力や感覚を鍛える必要性について論じられました。教育講演では、本看護学部「文化人類学」を非常勤で担当の田中大介先生（本学医学部、教授）が、人類がどのように「死」や「弔うこと」を捉えてきたのか、コロナ禍によって弔いがどのように変化したのかわかりやすくお話しされました。

シンポジウムは「新型コロナウイルス感染症パンデミックの看取りと家族ケアの変容」でした。入院治療の立場から自治医科大学附属病院 HCU の急性・重症専門看護師の福田侑子先生、在宅ケアの立場から下野市の鶴岡診療所所長である鶴岡優子先生（日本アカデミー賞受賞「いのちの停車場」医事監修・出演）、地域住民の相談の立場からみんなの保健室代表の渡邊カヨ子先生をお招きし、それぞれのお立場から看取りや家族ケアについてご講演頂きました。意見交換からも、コロナ禍の終末期のケアとして、面会の機会が減ったことによる意思決定支援の難しさ、コロナ禍だからこそ進んだ側面のある在宅医療、専門職として看取りをどう引き受けていくのかなど学びました。他にも、大塚公一朗企画委員（看護基礎科学教授）企画の交流集会や鹿野浩子企画委員（看護基礎科学講師）や湯山美杉企画委員（基礎看護学講師）企画のワークショップ、本学部教員や本学大学院生の研究発表、他大学の学部生の卒業研究の発表がありました。

開催が春季休業期間中のため本学学生の参加者がなく残念でしたが、今後もこのような機会を設け、本学学生の皆様がアカデミックな機会に触れられるように働きかけていきたいと思います。

以下にシンポジスト及び、企画委員、実行委員の皆で撮影した写真をご紹介します。



## 看護学部 学科目別教員一覧 (令和4年7月1日現在)

(職階別五十音順)

| 学科目    | 職位  | 氏名     | 備考                    | 学科目    | 職位  | 氏名     | 備考                                    |
|--------|-----|--------|-----------------------|--------|-----|--------|---------------------------------------|
| 看護基礎科学 | 教授  | 大塚 公一郎 | 学生委員長<br>学年担当アドバイザー総括 | 母性看護学  | 教授  | 成田 伸   | 4 学年担当アドバイザー                          |
|        | 准教授 | 倉科 智行  |                       |        | 教授  | 川野 亜津子 |                                       |
|        | 准教授 | 平尾 温司  |                       |        | 准教授 | 角川 志穂  |                                       |
|        | 講師  | 鹿野 浩子  | 1 学年担当アドバイザー          |        | 助教  | 上野 知奈  |                                       |
|        | 講師  | 関山 友子  | 2 学年担当アドバイザー          |        | 助教  | 二宮 美由紀 |                                       |
| 基礎看護学  | 教授  | 小原 泉   | 教務委員長                 | 小児看護学  | 助教  | 前田 彩乃  | 3 学年担当アドバイザー                          |
|        | 教授  | 里光 やよい |                       |        | 助教  | 谷田部 典子 |                                       |
|        | 准教授 | 内堀 真弓  | 1 学年担当アドバイザー          |        | 教授  | 横山 由美  | 3 学年担当アドバイザー                          |
|        | 講師  | 石井 容子  |                       |        | 准教授 | 田村 敦子  |                                       |
|        | 講師  | 湯山 美杉  |                       | 成人看護学  | 講師  | 小西 克恵  | 広報委員長<br>2 学年担当アドバイザー<br>3 学年担当アドバイザー |
|        | 助教  | 井上 育子  | 1 学年担当アドバイザー          |        | 助教  | 飯島 早絵  |                                       |
| 地域看護学  | 助教  | 甲賀 優貴  | 2 学年担当アドバイザー          |        | 教授  | 村上 礼子  |                                       |
|        | 教授  | 春山 早苗  | 看護学部長                 |        | 准教授 | 佐藤 幹代  |                                       |
|        | 教授  | 塚本 友栄  |                       |        | 准教授 | 長谷川 直人 |                                       |
|        | 准教授 | 島田 裕子  |                       |        | 講師  | 古島 幸江  |                                       |
|        | 講師  | 青木 さぎ里 | 4 学年担当アドバイザー          |        | 講師  | 渡邊 賢治  |                                       |
|        | 講師  | 市川 定子  |                       | 老年看護学  | 助教  | 遠藤 香奈  |                                       |
| 精神看護学  | 助教  | 舟橋 千尋  |                       |        | 助教  | 舘沼 麗奈  |                                       |
|        | 教授  | 永井 優子  |                       | 科総目合   | 教授  | 上野 まり  | 国家試験対策委員長                             |
|        | 教授  | 半澤 節子  |                       |        | 教授  | 浜端 賢次  |                                       |
|        | 助教  | 高崎 浩子  |                       |        | 助教  | 酒井 千裕  |                                       |
|        | 助教  | 路川 達阿起 | 4 学年担当アドバイザー          | 部看護学兼務 | 助教  | 沼野 莉奈  |                                       |
|        |     |        |                       |        | 講師  | 佐々木 彩加 |                                       |
|        |     |        |                       |        | 講師  | 鈴木 美津枝 |                                       |
|        |     |        |                       |        | 准教授 | 川上 勝   | 看護師特定行為<br>研修センター本務                   |

## 令和4年度年間スケジュール (R4.7.1 時点)

| 前学期         |                                                                              |                     |                                                             |                                                                |                                                      | 後学期        |                                                   |                   |    |                                                  |                        |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------|---------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|------------|---------------------------------------------------|-------------------|----|--------------------------------------------------|------------------------|
| 4月          | 5月                                                                           | 6月                  | 7月                                                          | 8月                                                             | 9月                                                   | 10月        | 11月                                               | 12月               | 1月 | 2月                                               | 3月                     |
| 前学期授業開始(4日) | 入学式(8日)<br>春季休業(4月29日～5月5日)<br>創立記念日(14日)<br>3年次各論実習①<br>(主に病院での実習、9日～7月22日) | 1年次対象の理解実習(20日～24日) | 4年次総合実習(25日～8月5日)<br>1・2年次定期試験(25日～29日)<br>4年次定期試験(19日～21日) | 夏季休業(8月10日～9月19日)<br>再試験(8月29日～8月31日)<br>4年次選抜助産学実習(22日～11月4日) | 後学期授業開始(20日)<br>2年次日常生活援助実習・成人継続療養実習<br>(21日～10月24日) | 薬師祭(7日～9日) | 防災避難訓練(8日)<br>3年次各論実習②<br>(主に地域・在宅での実習、14日～2月17日) | 冬季休業(12月23日～1月5日) |    | 1年次定期試験(3日～9日)<br>2年次定期試験(6日～9日)<br>再試験(27日～28日) | 卒業式(3日)<br>学年末休業(11日～) |

※年間スケジュールについては6月1日現在のものであり、新型コロナウイルス感染拡大の影響により変更が生じる場合があります。

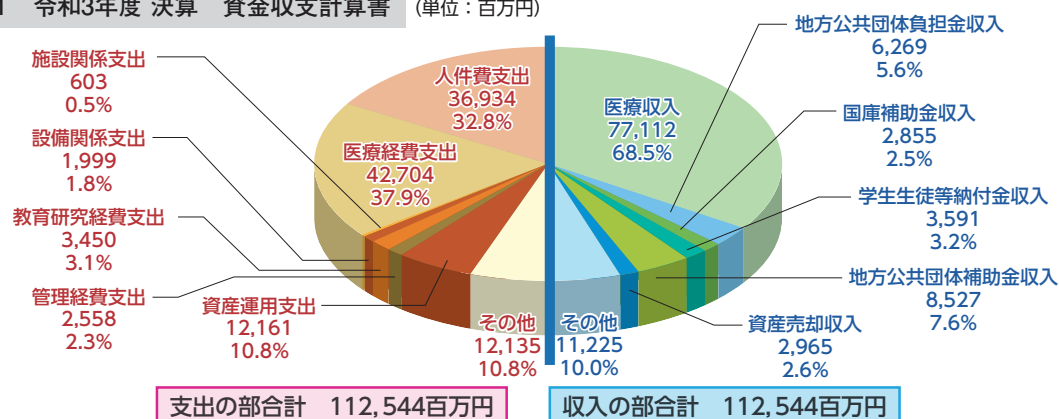
## 令和3年度 学校法人自治医科大学決算について

令和4年5月31日（火）に開催された理事会及び評議員会において、令和3年度学校法人自治医科大学決算が承認されました。決算の概要は次のとおりです。

### ・資金収支計算書（別図1）

1年間に実際に収入又は支出した金額（現金ベース）を主として科目別に分類して表した決算書です。

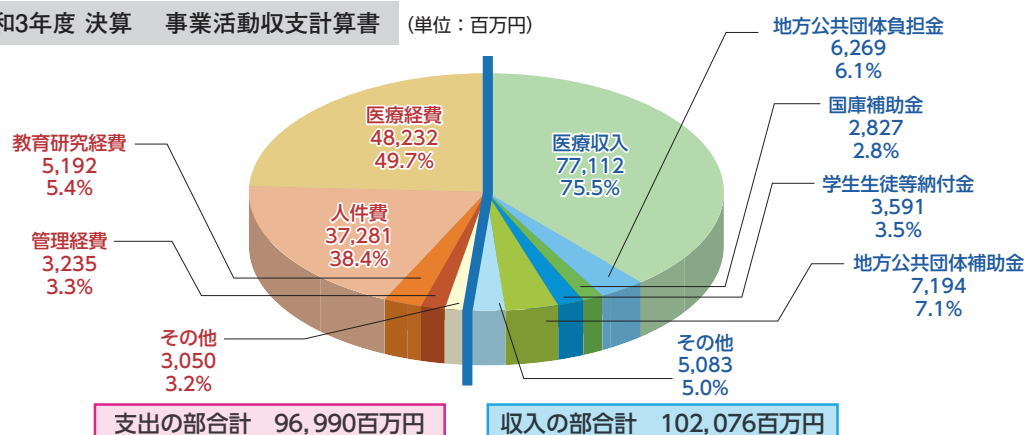
別図1 令和3年度 決算 資金収支計算書（単位：百万円）



### ・事業活動収支計算書（別図2）

企業会計で用いられている損益計算書と類似しており、学校法人の経営状況を表した決算書です。

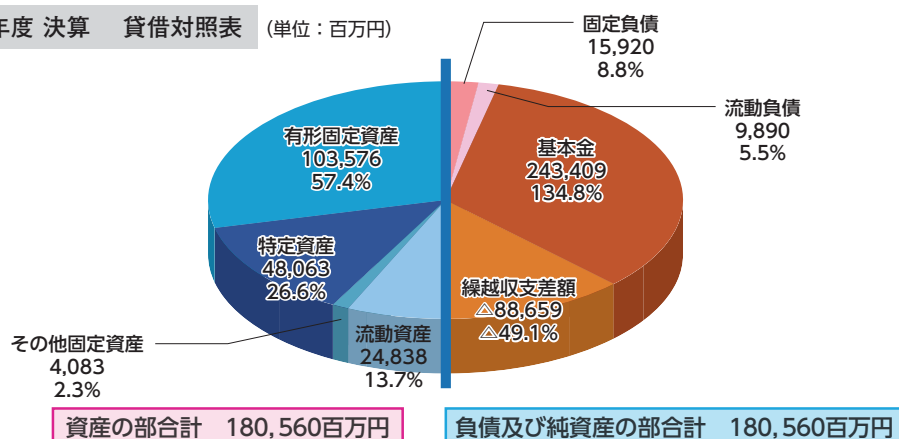
別図2 令和3年度 決算 事業活動収支計算書（単位：百万円）



### ・貸借対照表（別図3）

3年度末時点での固定資産や現預金、負債等の保有状況を表した財務書類です。

別図3 令和3年度 決算 貸借対照表（単位：百万円）



※財務状況等の詳細は、大学ホームページ  
[http://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public\\_info/index.html](http://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public_info/index.html)の「情報公開」でご覧になれます。





## 令和3年度事業の概要について（大学事業報告書より、看護学部関係抜粋）

看護学部は、4年間の教育課程を通じて、豊かな人間性を涵養することに力を注ぎ、高い資質と倫理観を有し高度医療と地域の看護に貢献できる看護職者を育成するため、次の取組を実施した。

なお、COVID-19への対応については、学部長を議長とする看護学部新型コロナウイルス感染症対策会議を定期的に開催し、教育内容・教育方法・成績評価等についての検討、学生の学習環境の整備、教員の教育環境整備についての検討をし、教育の質の維持、適切な対策・対応を実施した。

### ① 学生教育に関すること

- ・ COVID-19の状況を踏まえながら、講義実習の対面・メディア切り替えを迅速に行い、ほぼ予定通りの講義・演習・実習を実施した。
- ・ 保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い、令和4年度からの新カリキュラムについて文部科学省へ変更申請を行い承認された。また、学生が体系的に履修できるようカリキュラムマップ等も整備した。
- ・ 国家試験対策について、全員を対象とする対策に加え、3年次までのGPA成績と模試結果を踏まえ、学習支援の強化が必要な学生を絞り込み支援する取組も行った。

### ② 学生の受け入れ・支援に関すること

- ・ COVID-19の状況に鑑み、オンラインでのオープンキャンパスを当初予定の3回から4回に増やして開催し、例年以上の参加者があった。
- ・ 新入生アンケート結果から、受験生が大学ホームページから情報収集することが多いことが明らかとなったことを受け、サイトリニューアルを行い、受験生や保護者等への情報提供を行った。

### ③ 学生への支援について

- ・ 学習や生活に課題のある学生に対し、統括及び各学年のアドバイザーを中心にオンライン面接も取り入れて個別に支援した。
- ・ 令和2年度に策定した看護学部における「学生生活の新たな指針」の改定及び学生寮の入浴ルールの設定等により感染対策を図った。
- ・ COVID-19の影響により仕送りの減少、アルバイト制限などに対し、学部独自の奨学金の他、民間の給付型奨学金や国の学生支援緊急給付金の周知・推薦を行った。

#### 編集後記

タイトルの“ビタミン・N”には、Nurseを志す学生や学生を支えてくださっている皆様へ、“ビタミンのようにちょっとした元気をお贈りしたい”という願いが込められています。今年も明るく楽しい看護学部の“元気”をお届けいたします。今後とも“ビタミン・N”を何卒よろしく願いいたします。

（担当：成田 伸、小西 克恵、スタナーズ 里杏）

#### ビタミンN 第19号

発行日：令和4年7月8日

発行：自治医科大学看護学部

本件に関するお問い合わせ先：

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-159

T E L 0285-59-7409（看護総務課）

E-mail ksoumu@jichi.ac.jp